

インターバンクの声（2017年10月4日）

ニューヨーク市場の序盤、ドル円は東京市場の午後に付けた113円20銭の高値更新に向かいそうに見えた場面もあったが、その後の円買い・ドル売り調整が思いのほか大きくなったために112円台後半での取引がニューヨーク市場の引けまで続いてしまった。

足元のドル円相場について、ディーラー仲間の多くは「ドル買いで良いだろう」と話す。同時に「ポジションは既にドル・ロングになってしまっている」と感じているようだ。勿論、ディーラーの相場観が常に正しい訳ではないが、これだけ見方が揃っていると、昨夜のようなドル買いに見えるような場面で「持ち高調整」が起こりやすくなるのも当然だろう。

今週のアジア時間は中国の国慶節のために参加者も少なく、香港市場も開く日と閉まる日が交互にあり、どうしても継続的な市場変化はロンドン市場やニューヨーク市場頼みとなる。

前日に発表された米ISM製造業景況指数が予想外に強かったことで一時的にドル買いにはなったが、やはり今週の注目は、今晚のADP雇用統計と週末の雇用統計のほうだ。明日、明後日にはFRB高官の講演予定もぎっしり詰まっており、目新しい発言でもあれば久しぶりのドル高水準まで動きがあるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。